

今月のおもな記事

- 2000万人統一署名スタート! (1面)
- 本田宏医師の講演(2面)
- 薬局法人学習会(3面)
- 青年職員育成を考える活動交流集会(4面)

長野県民医連

長野県民主医療機関連合会
2016年2月25日 第302号

事務局
〒390-0803 松本市元町2-9-11 民医連会館2F
☎0263-36-1390 FAX 0263-33-1229
Eメール kikanshi@n-mr.com
URL <http://www.mintyo.or.jp/min-iren>
[月1回25日発行 定価100円・加盟院所職員は会費に含む]

県連12万筆で

戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会が呼びかけた、「戦争法の廃止を求める統一署名」=2000万人統一署名が、5月3日の達成をめざして始まっています。長野県民医連の目標は12万筆!!
各地域連絡会の取り組みを交流します。

中信

DVD視聴を軸に 行動へ

①学習を基に、共同組織と共に行動する。②職員独自の繋がりによる運動の拡大を求めている。③「戦争法反対」の一点で結びつく全ての人たちと共同を広げ、目標を達成する。

DVD「戦争法を廃案に!〜2000万人署名を成功させよう〜」を松本協立病院では、病院のポータルサイトにアップしいつでも視聴可能にし、塩尻協立病院では昼休みに会議室でオープン上映会を開催し学習を広げています。

また、友の会にも学習を含む行動提起を行います。地域の方に協力してもらうために、返信用封筒を作成し署名用紙とセットにして配布します。(署名推進ニュースより)

諏訪

幹部と若手職員で推進委員会

南信勤医協・諏訪ひまわり企画では目標を1万筆とし、林芳久理事長を本部長に幹部と若手職員で署名推進委員会を作りました。

飛躍的に進めるために、2月10日、管理部・職責の決起集会を行いました。緊急でしたが32人が集まり意思統一を行いました。1人10筆以上の達成報告用紙を使用し、経験を推進ニュースで交流していく、病院では全職場交代で待合室署名を行う、泉の会員に機関紙配付時に対面で署名をお願いすることなどを確認しました。本部では銀行や業者への依頼も始めています。

3月2日には、木嶋日出夫弁護士を講師に全職員学習会を開催します。

飯伊

全職場の参加で 推進委員会を結成

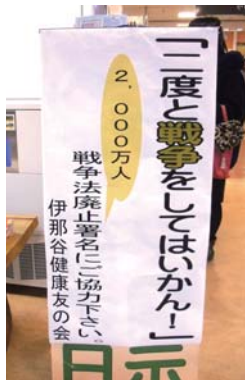
10000筆を目標に法人の推進委員会を結成し、理事長を責任者、林常務を中心に大原部長、佐藤部長、小田課長で体制をとり1月11日に事務局会議を行いました。

当面の方針は、①共同組織に署名を郵送する。②郵送した署名用紙を効率的に返送していただくために友の会会員に電話がけ。③外来での署名活動。④職員への署名の提起を決定しました。また、続けてきた病院前のスタンディング行動も毎週木曜日に取り組みます。

2月10日には、病院の全職場から推進委員を選出して推進委員会を開きました。職員はこれから回収ですが飯伊民医連として現在2020筆が集まっています。



1月15日に署名推進本部準備会を開催し、取り組み方針を決めました。



戦争法を本気で止める!

長野

スタート集会で 女性医師が決意表明

職員1人10筆以上(1万筆)と、組合員の6割(3万7800筆)を合わせた4万7800筆を目標に署名活動を開始。2月9日現在で職員1336、組合員4685筆です。

1月15日には62人の参加でスタート集会が開かれました。女性医師4人が「医療従事者として戦争法とは相容れないもの」「40年間無関心でしたが子どものために黙っていられない」「これからの日本のために自分がやるべきことをやっていきます」と次々に決意表明。病院では15分署名行動集中週間として午前9時から15分間の待合室行動を毎月行う予定です。

2月12日には長野駅前でバレンタイン行動を行い、職員39人、組合員11人が参加し100筆を集めました。(「47,800筆本気新聞」より)



東信

組合員さんから署名 用紙の追加要望も

当面の署名目標を5000筆とし、理事を主体とした外来での署名活動や機関紙「千曲川のにじ」1万2000部への署名用紙と返信用封筒の折り込みを行いました。切手を貼って返信してくれた組合員さんは200人に達し、電話で「この署名は大変良い内容なので近所にもお願いするからあと5枚用紙を送ってほしい」という人も。2月16日現在で1507筆(達成率30.1%)の署名が集まっています。2月19日には全国統一行動に参加していきます。

また、毎月9日と25日には青年職員有志を中心とした街頭パフォーマンスも昨年夏から続けています。スタンディングデイが分かるようにカレンダーへ貼るシールも作り、多くの職員に働きかけています。(東信医療生協社保委員会)



上伊那

最低1回、 全職員行動へ

目標6000筆達成に向け、各事業所の事務長を中心に署名推進体制を組み、情勢と署名活動の意義・方法についての職場学習会、社保、組織、青年等の各委員会が相互連携し行動計画を立て、全職員に「最低1回の署名行動への参加」を呼びかけています。

伊那市内の産直市場「グリーンファーム」での毎土曜日の署名活動、病院外来での署名コーナーの設置と患者・利用者さんに協力を依頼しました。多くの皆さんが想像以上に快く応じてくれ、いかに戦争法制が危惧されているかを実感し、「民意がここにある」ことへの確信と勇気が生まれています。



【署名集約状況】

15803筆(13.2%)

120000筆

(2月16日現在)

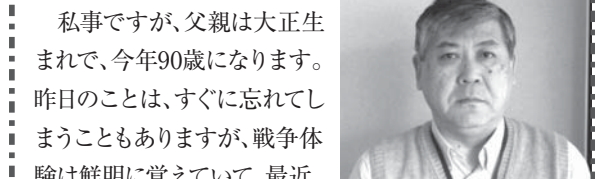
切開

安倍首相が、戦力不保持を規定した憲法9条2項の明文改憲を公然と表明しました。いよいよ平和の危機です。一つの主権国家が70年間戦争をしなかつたことは誇りです。命と健康を守る仕事をして

いる私たちは、人が殺し合うことを絶対に許せません▼安倍政権は先の国会で安保法制Ⅱ戦争法案を強行成立させました。人類の歴史の中で到達した憲法の、国家権力の暴走を縛り人権を守るという立憲主義を踏みしめるものです。政府と安倍首相は、戦争法で自衛隊を海外に出動させる場合に憲法9条が障害物となることを改めて確認したのです。マスメディアの調査で「9条改正」に「反対」が6割を超えています。国民は9条を支持しています。戦争する国にさせないためには安倍政権を退陣に追い込むしかありません▼参議院選挙が5か月後に迫っています。支持政党の違いを超え、戦争法廃止と立憲主義回復をかけた、若者から高齢の方まで国民の運動がもたらがっています。選挙で野党が結束して自民党を少数派にさせることを願ってやみません。今こそ立ち上がるときです。(清)

平和憲法守る私の声 ②6

NO WAR! 塩原 秀治 協立福祉会・事務局長



私事ですが、父親は大正生まれで、今年90歳になります。昨日のことは、すぐに忘れてしまうこともあります。戦争体験は鮮明に覚えていて、最近、孫にもよく当時の話をしています。徴兵され、昭和20年6月に海軍に配属され、まもなく静岡で終戦をむかえたそうです。目の前で機関銃の銃撃にあり、人が死んでいったそうです。父がその場で死んでいたら、私はここにいません。

昨年9月19日、安倍内閣は「安全保障法制」の「法整備」に向けた関連法案として、他国の軍隊を支援する「国際平和支援法案」と、自衛隊法など10の法律改定を1本にまとめた「平和安全法制整備法案」の2法案を強行可決しました。その内容は、日本国憲法が憲法9条ならびに前文でうたった平和主義を真向から否定し、日本を戦争国家へと変貌させる「戦争立法」そのものです。

日本が攻撃されていない場合でも、アメリカとともに海外で戦争をおこなう道が開かれています。「日本と密接な関係にある他国に対する武力攻撃が発生し、その武力攻撃によって「日本の存立が脅かされ、国民の生命、自由及び幸福追求の権利が根底から覆される明白な危険がある事態」に至ったと判断されれば、自衛隊は武力を行使できるのです。「集団的自衛権」の名の下に、アメリカがおこなった無法な侵略戦争にも、自衛隊が参戦する危険があります。

いよいよ、3月から、こうした危ない「戦争法」は施行されます。あらゆる手立てで、戦争立法の実施を阻止し、廃案めざしていきましょう。参議院選挙で、野党が共闘して、安倍政権をかならず、打倒して、憲法9条が輝く日本をめざしましょう。

あはだ with TOMMY



1月28日、県連会館で全日本民医連会計顧問の根本守公認会計士を講師に、薬局法人の「非営利型一般社団法人」への移行について学習会が開かれ、薬局法人役員を中心に約30名が学びました。

政府・厚労省の医薬分業政策の下で、民医連の保険薬局のほとんどは、株式会社・有限会社（含む）という営利法人形態をとらざるを得ませんでした。そのため株主に利益剰余金を分配しない措置をとるなど、非営利・協同を貫く努力をしてきました。

しかし、営利法人形態としての限界は残るため、全日本民医連では非営利型一般社団法人

薬局法人の非営利型一般社団法人への移行について

公認会計士を講師に学ぶ

へ移行を推進するプロジェクトを立ち上げました。非営利型一般社団法人は、保険薬局（収益事業）とは別に非営利事業（公益事業）を行うことが可能で、地域に貢献できる真の「非営利・協同」を実現できることになりました。

学習会では、県連の（有）ひまわり企画の下にあるホールディングス会社の5法人を非営利型の一般社団法人に移行し、その後有限会社を解散させる方法・手続きを学ぶ事ができました。今後、県連理事会のもとで関係各所と連携を図り、計画を推進していきます。

組合員さん待望! “宅幼老所みなみ” オープン!



地域組合員さんの長年の熱い思いに支えられ、1月19日、伊那市長谷に開所。築約100年の古民家を改修した、定員10人の小規模デイサービスです。個々に寄り添い、アットホームな雰囲気の中、笑顔で活動できる場所をめざします。



2分で読める100問練習

Q 新型ノロウイルスの特徴と予防は？

A ノロウイルスは2〜3年毎に変異株が出現し、GⅡ-4型は2006-2012年に大流行しました。2014〜2015年冬季には、GⅡ-17の変異株GⅡ-17 Kawasaki 2014の流行が、中国南部、台湾や日本（川崎、長野など）で確認されています。

GⅡ-4とGⅡ-17の決定的な違いは人間にGⅡ-17の免疫がないので多くの人が感染する確率が高くなることです。また、既存の検査キットエラーリサ法では検出が難しいので、陰性でも安心できないことです。

感染経路は、①ノロウイルスに汚染された食品（牡蠣等の二枚貝）の生、加熱不十分な料理の摂取 ②感染者の糞便や吐物に触れた手から口・目・鼻などを介しての接触感染 ③処理後、次亜塩素酸で消毒をします。詳細は各施設のマニュアルを参照してください。

具体的には下痢、嘔吐の場合は「接触・飛沫感染対策」手洗いの徹底です。吐物の処理にはガウン・マスク、手袋を着用し、処理後、次亜塩素酸で消毒をします。詳細は各施設のマニュアルを参照してください。

「普天間基地早期返還」の民意は変わらず

宜野湾市長選挙支援を終えて

1月24日投票の沖縄県宜野湾市長選挙は、残念ながら安倍政権が支援した現職が当選。しかし、共同通信の出口調査では辺野古移設に反対する意見が56%に上り、当選＝辺野古容認ではないことも浮き彫りになりました。全日本民医連の呼びかけに応じて、全国から800人以上、長野県からも30人が辺野古新基地反対を訴えた志村恵一郎さんの応援に駆けつけました。

参加者の声

政府は正しく民意を受けとめるべき

発端は、2014年の「標的の村」上映会でした。観に行ったら薬剤師たちはその内容に衝撃を受け、「知らないまま過ぎていくのは良くないことだ」という思いを強くしました。沖縄行きの話に、こんな機会はないかもしれないと後押ししてくれたのは、その薬剤師たちでした。結果は残念でしたが、宜野湾市民が苦しい選択の中、普天間飛行場の危険性早期除去という民意を突きつけたことは確かです。政府は正しく民意を受け止めるべきです。

選挙支援から見た沖縄の“リアル”

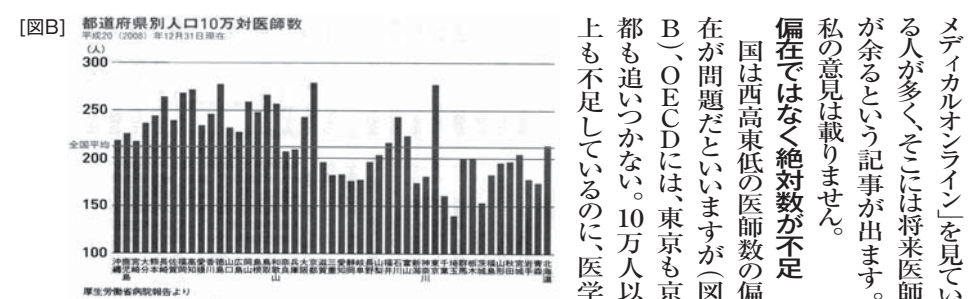
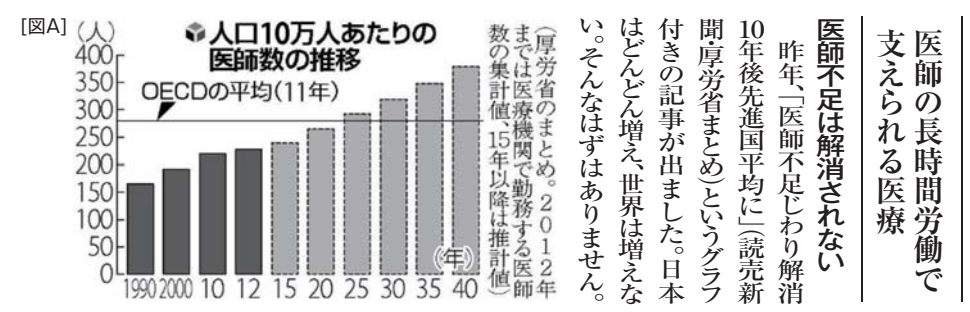
選挙支援活動を通して、華やかな観光地としての私の中の沖縄のイメージが、ガラッと変わりました。共働きが多いためかほとんどおらず、ガランとして決して綺麗といえないアパート、あたりまえのように頭上20mあたりを轟音をたてて飛ぶ戦闘機やヘリの恐怖。この状況を本気で変えようと、全国から数多くの民医連職員が集まりました。その熱気に感銘を受け、私も民医連職員にふさわしい人物になれるよう、さまざまな活動に参加したいと思いました。

メディアリテラシーの観点で医療を見よう

5年前にできた埼玉県の久

問題はこういうことが伝わっていないこと。国民は医師不足や医療費が安いことは知らないが、五郎丸ベッキ、清原のことは知っている。テレビで繰り返して報道されるから。問題はこういうことが伝わっていないこと。国民は医師不足や医療費が安いことは知らないが、五郎丸ベッキ、清原のことは知っている。テレビで繰り返して報道されるから。

低医療費・高負担のニッポンの医療 日本での医療費は安い! 「医療費40兆円突破 昨年度診療報酬削減」 昨年9月の日経新聞の見出し。医療費が高いから削減するのだと国民は思うでしょう。しかし、医療費40兆円の内訳では税金の支出は16兆円以下です。日本の医療費は高くなっていますがグローバルスタンダードと比較すると、世界一高齢化の



2011年のOECD平均が変わらないとした「ましかしで」(図A)。日経新聞は、医学部の定員削減、政府検診医療費膨張が続くこと、治療させないよう医師を減らすという意図が表れています。医師増員への誤解 若手医師は、医師増員に反対の人が結構多い。経済界がスポンサーの「E303」や「日経メディカルオンライン」を見ている人が多く、そこは将来医師が余るといふ記事が出ます。私の意見は載りません。偏国ではなく絶対数が不足 国は西高東低の医師数の偏在が問題だといいますが(図B)、OECDには、東京も京都も追いつかない。10万人以上も不足しているのに、医学部の定員削減が計画されているのです。 今の日本の医療は、医師の長時間労働と使命感やつと支えられています。オフレイは増やすが医師は増やさない。これが日本です。

メディアの情報を読み解き 医療崩壊を食い止めよう

2月6日、長野県保健協公開講演会として本田宏医師(NPO法人医療制度研究会副理事長)が「本当の医療・介護崩壊はこれからやってくる」と題して講演しました。本田医師は15年3月で36年務めた外科医を引退し、医療崩壊の実態を知らせ再生させるための活動を積極的にしています。講演の概要を紹介します。

医療機器の費用は世界最高。高い機械や薬を使って、日本の病院が黒字にまでしようか? しかも、医療費より高いものがたくさんあります。たとえば高速道路の緊急電話は実費40〜50万円です。それを一台250万円、1kmおき、上下線に付けていました(民営化前)。日本の財政赤字は医療のせいではないのです。

医師の長時間労働で支えられる医療 昨年「医師不足は解消されない」 10年後先進国平均に「読売新聞」 開業医を減らすというグラフ付きの記事が出ました。日本はどんどん増え、世界は増えな。そんなはずはありません。

99%の国民の連帯が医療崩壊を防ぐ 医療、辺野古、TPP、戦争法などそれぞれの分野で頑張っている人がいます。けれど、ばらばらです。問題解決に重要な視点は①全体を見る ②グローバルスタンダード 世界水準と比べてみる ③歴史の検証 ④Follow the Money お金の流れを追うです。 そうすると、1%の人の利益のために政治家があることが見えてきます。「辺野古は反対だがTPPは賛成」ということはありえません。 日本の医療再生に大事なのは Patient First。Moneyでも Economyでもありません。これが社会保障の基本です。のままいくと本当の医療介護崩壊がやります。そうさせないためにはメディアリテラシーの観点をもち、あらゆる分野での連帯と、政治を変える選挙行動を起こす必要があります。

東 南 西 北



長野

10年目の学連交を開催

2月13日、長野地域連絡会学連交に150人が参加し、43演題が発表されました。立て排席がしたという利用者の思いに寄り添った実践、省エネの啓蒙、改善による経費削減、真空調理を応用した時々の料理など、多彩な発表が、1日という仕事からしたという思いに触れ、活力を得られる会となりました。

上伊那

高齢者虐待防止を学ぶ

2月13日、在宅高齢者虐待防止に関する学習を行いました。前半は法律の理解で、職員は早期発見と通報義務があることを学び、後半は事例に基づいて適切な対応の判断を議論しました。事例を自分たちの仕事と照らし合わせ、あつめて利用者の人権を守る大切さを考えることができました。

東 信

手づから作ったおしゃべり食事を

1月16日、東信医療生協では1人で食事をとっている人を対象に、おしゃべり食事をを行いました。組合員、職員約20人が参加。お弁当かと思ったら手作りのごはんでおいしかったと好評でした。次回も楽しみ、この声もあり1月1回は実施できればと思います。この活動が地域へ引き継がれることを期待します。

飯 伊

締めはひきつひきつたん局ッ

1月23日降雪の中、飯伊民医連新年会が130人の参加で盛大に行われました。戦争法廃止200万筆署名では、県民医連12万筆の目標を確認し、年間功労賞表彰の後、乾杯へ。興を愉しみ料理に最盛をもち楽しいひと時を過ごしました。最後は恒例のひきつひきつたん局の合戦で閉会となりました。

中 信

協立はりきゅうマッサージセンター開業

松本協立病院物語は1月から要項が多かつたはりきゅう治療も行える施設へ協立はりきゅうマッサージセンターとして新たに独立開業しました。今後は訪問マッサージ事業も視野に入れ、これまで培ってきた知識・技術・経験に自信と誇りをもって、よりよい地域のみまさんへの貢献できるよう努めます。

諏 訪

すずかぜ神社が好評です

諏訪大社がある下諏訪町では、神社はじみのごつです。老健すずかぜは、利用者にといいに施設内に「すずかぜ神社」をへりました。LEDの明かりがつけられます。スリッパ、アルケアのついでに認知症緩和も活用しています。今年は御柱すずかぜ神社にもお立ち寄りください。

協立はりきゅうマッサージセンター

☎0263-35-9843 各種保険取扱

※時間 月～金曜日 AM9:00～11:30 PM1:30～16:30
土曜日 AM9:00～11:30 ※日曜祝日定休

民医連で成長しよう！

県連青年職員育成を考える
活動交流集会、
5年ぶりに開催

青年育成の 課題前進

1月23日、松本市駅前会館で「県連青年職員育成を
考える活動交流集会」が開
かれました。2011年に

初めて開催し、後継者対策
の具体化・教訓の共有、青
年委員会機能の確立など
が提起され、青年育成の課
題を大きく前進させる契
機となりました。

活動交流集会には、青年
職員の育成を含めた職員



育成に携わ
る担当者、J Bや
青年を主とした取り組み
で活躍する青年職員など
55人が参加しました。

私と民医連 「小児科での経験から」

受診を中断する「ちょっと困った家族」の事情を
和田医師から聞き、「困難を抱えている」という視点が
加わった。「私のアンテナ」(保険証、仕事の形態、定期受
診に来ない、服の汚れ・臭い、親や子どもの歯など)で気
づいた患者さんについてカンファレンスで話し合い、小
児科全体でフォローするようになった。小児科業務にや
りがいを感じ、職員同士も信頼し合える仲間になった。
民医連の小児科だから変わったのだと思う。

願いを託せる 政権を求めている

今、改めて青年育成の重
要性が強調される状況の
もと、名城大学の袁輪明子
先生を招き、「若者がおか
れた社会状況と社会運動
の現局面」と題する講演を
行いました。現在の日本の
青年がおかれている雇用
や貧困の実情から、政治や
社会の問題に対し行動す
る青年が増えている。選挙
で自分の願いを託せる政
権を真剣にもとめている
など、青年の社会に対する
意識の特徴について学び
ました。

成長は民医連を 体感してこそ

6人の青年職員からは、
「なぜ、自分が民医連で働

いているのか？民医連で
働くうえでのやりがい」
「小児科診療の現場から患
者に寄り添い、医療制度改
善する取り組み」ことの大切さを学んだこと「ジャ
ンボリーの取り組みから
学び合うこと、お互いに思
いを共感することの喜び」
などが報告されました。

グループ討論では、「青
年」と「青年育成援助者」が
悩みや問「意識を語り合
い、思い」共有しました。

青年職員、職場など集団
の中で、民医連を体感し成
長します。集会では、法人
や連絡会が青年職員を援
助する担当者を集団化す
ることの必要性が強調さ
れました。